

# R-ネット瓦版 第2号

## ◆◆◆最近のトピックス◆◆◆

### 日本がん治療認定医機構の暫定教育医について

地球温暖化のせいでしょうか、今年の残暑は一段と厳しいものになりました。その最中の8月21日、中国新聞一面トップで「抗がん剤専門医不在病院が3割」と中国地方のがん診療連携拠点病院31ヶ所について報じていました。この「抗がん剤専門医」とは何？と疑問に思われた方も多いのではないのでしょうか。公式には「がん専門医」も存在しないのに、マスコミがこのような記事を書くのはイレッサの副作用死がきっかけになっていると思われます。記事を読むと「抗がん剤専門医」とは日本臨床腫瘍学会認定の「がん薬物療法専門医」とそれを指導する「暫定指導医」のみを指していることが解かりますが、この単なる一学会が認定しているに過ぎない資格を「抗がん剤専門医」と決め付けるマスコミの報道に疑問を感じてしまいます。

一学会の認定ではなく公式の「がん専門医」養成を目指して、今年から新たに「**暫定教育医**」が登場しました。がん研究に関する日本の学会は多数ありますが主なものは設立の早い順から日本癌学会、日本癌治療学会、及び前述の日本臨床腫瘍学会です。この3学会および全国がん(成人病)センター協議会の代表により構成される有限責任中間法人「日本がん治療認定医機構」が2006年12月16日付けで発足しました。この機構の目的は、「日常のがん治療水準の向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識、基本的技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践する優れた医師の養成と認定を行い、本邦におけるがん診療の発展と進歩を促し、国民の福祉に貢献する」とことと謳われています。すなわち、各種がん患者と領域別あるいは治療法別の各専門医の間に立って、患者の初期診断から終末期医療までのがん治療を適切にコーディネートできる医師を育成することを目指しているようです。

この「がん治療認定医」を教育するための研修施設を認定するために設けられたのが「**暫定教育医**」です。この「**暫定教育医**」の申請条件は①日本国の医師免許証を有すること。②日本癌治療学会臨床試験登録医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、所属する学会の認定医又は専門医いずれかの資格を有すること。③10年以上がんに関する診療に携わっていること。④癌治療に関して十分な業績を有すること。[「臨床腫瘍学に関連した論文」5編。「がん治療に関する論文」が最低1編必要。筆頭もしくはcorrespondenceを最低1編含む。]の4つです。

当院にはもともと日本臨床腫瘍学会の暫定指導医が4名在籍し、各種がん患者の化学療法を積極的に行ってまいりましたので、早速この**暫定教育医**にも出来るだけ多くの医師に申請



していただきました。この結果9名(外科5名、婦人科2名、泌尿器科2名)がこの度認定されましたので現在、認定研修施設の申請中です。当院は残念ながらがん診療連携拠点病院の指定を受けられませんでした。それらに勝るとも劣らないがんの診療機能を備えており、多数のがん患者の治療を行ってまいりました。今後もがん診療の機能を充実させながら、実力のある「がん治療専門医」を一人でも多く誕生させるために努力してまいります。

広島市立安佐市民病院 副院長 多幾山 渉

**各診療科のご紹介シリーズ第2回**  
**《消化器内科》**

当科は従来から内科の主要部門の一つでしたが、2006年より正式に消化器内科として院内呼称を行えるようになりました。「1.安全で確実な検査・治療の実践、2.患者様とその家族に対し親切な対応と十分な説明、3.チーム医療の励行と実践」を理念にし、最新の内視鏡設備、超音波診断装置およびCTなどを生かし、早期診断、治療方針の決定および内科的治療を積極的に行っております。消化管腫瘍、消化管出血などの内視鏡的治療や肝疾患の集学的治療ならびに予防医学にも取り組んでおります。救急診療についても夜間休日に関わらず、すみやかに消化器緊急処置が可能な体制を整えております。2007年6月からは念願の消化器内科病棟（南6病棟）45床（足りない？）も割り当てられ、入院待ち期間の短縮、クリニカルパス導入による回転率の上昇やコメディカルスタッフの教育にも努力しております。消化器内科医師の配置は現在9名（レジデント4名を含む）です。

**消化器内科スタッフ紹介（役職）**

**日高 徹**（院長）：当院の消化器内科の歴史そのものですが、現在は院長職に忙しい毎日です。消化器一般、消化管担当。

**浦城三四郎**（内科主任部長）：注腸、胃透視に長けており、内科の主任部長として研修医の指導にも熱心に行っております。消化器一般担当。

**大越裕章**（内視鏡科主任部長）：消化器内科で最も紹介率が高く、内視鏡科の長として検査・治療からレジデントの指導まで丁寧に行っております。消化器一般、消化管担当。

**辻 恵二**（内科部長）：肝臓を専門としインターフェロン等予防医学から肝がん治療まで行っております。消化器一般、肝臓担当。

**永田信二**（内視鏡科副部長）：早期がんの診断から内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）まで常にアグレッシブに検査・治療を行っています。消化器一般、消化管担当。

**木村 茂**（内科副部長）：当院の消化器疾患の救急現場では常に活躍し、また当科唯一の内科専門医でもあり、プライマリケアにも精

通した消化器専門医として熱心に診療に当たっております。消化器一般、消化管担当。

**消化器内科レジデント紹介**

川瀬理恵、本田洋士、斧山美恵子、中山奈那の4名で消化器内科医として広い知識と技術の習得を目指し、日常診療から学会活動まで切磋琢磨しております。

**平成18年度の検査・治療件数**

上部消化管内視鏡検査	4,195 件
（うち食道、胃 ESD・EMR 98 件）	
内視鏡的止血術	117 件
EIS・EVL	59 件
胃瘻造設術	76 件
大腸内視鏡検査	2,978 件
（うち大腸 ESD・EMR 508 件）	
ERCP・ENBD・EST	132 件
上部消化管 X 線検査	1,103 件
注腸 X 線検査	270 件
腹部エコー	2,467 件
肝生検	83 件
PEIT・ラジオ波焼灼術	30 件

**消化器内科外来**

外来は毎日2診体制で、外来診療一覧表のように行っています。医療連携室を通して日時をご予約いただければ、患者様をお待たせいたしませんので宜しくお願いします。紹介する医師がわからないときは消化器内科担当医宛にて紹介してください。上部内視鏡検査（胃カメラ）や腹部エコー検査は医療連携室を通しての検査のみの予約も可能です。

また消化器疾患の患者様で緊急を要する場合は各スタッフ（不明の場合は大越）に電話で直接ご連絡いただければ幸いです。

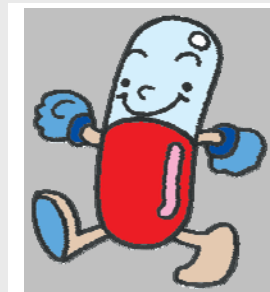
**消化器内科外来診療一覧表**

	月	火	水	木	金
1 診	川瀬	永田	日高	浦城	木村
2 診	辻	中山	辻	大越	斧山/ 本田

（消化器内科部長 辻 恵二）

## 外来がん化学療法

平成 11 年に抗癌剤の過量投与による医療事故が相次いで報道され、薬剤師による処方監査・抗癌剤調製などの積極的な関与の必要性が認識されました。当院薬剤部では、より安全で有効な癌化学療法施行を目的に平成 12 年 6 月より全病棟・全診療科の通院受診患者の抗癌剤処方監査並びに無菌調製を開始しました。平成 17 年 4 月には外来化学療法室が設置され、現在外来化学療法室で施行される抗癌剤は全て薬剤部にて無菌調製しております。平成 18 年 11 月からは薬剤師による服薬指導、薬剤相談業務も開始しました。



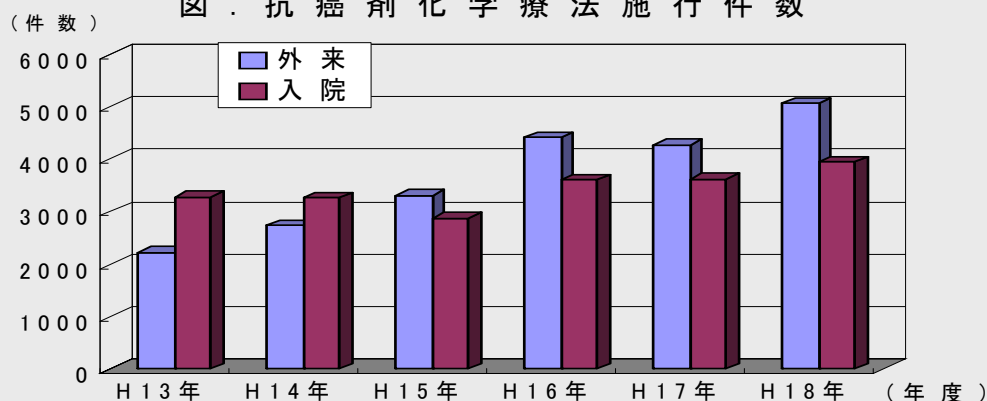
近年、患者 QOL の向上、包括医療の導入、入院期間の短縮などが叫ばれ、抗癌剤治療においても入院治療から外来治療へとシフトしています。当院でも平成 15 年以後、外来化学療法の件数が入院治療件数を上回る結果となっています (図)。また、各科の最近の癌化学療法施行患者数および件数は表の通りで、特に外科の件数の増加が顕著となっています。

癌化学療法レジメンおよび副作用対策は進歩を遂げ、今後益々外来での化学療法件数の増加が予想されます。  
(薬剤部部长 長崎 信浩)

表. 外来抗癌剤化学療法施行件数(平成 19 年 4~8 月)

	内科		外科		泌尿器科		放射線科		その他 (婦人科 他)		合計	
	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件
4 月	38	71	162	294	9	9	10	14	0	0	219	388
5 月	53	99	176	314	10	10	15	21	1	1	255	455
6 月	42	71	169	326	6	6	12	16	0	0	229	419
7 月	56	93	201	360	8	8	14	23	0	0	279	484
8 月	43	72	220	423	9	9	13	21	3	6	288	531
月平均	46.4	81.2	185.6	343.4	8.4	8.4	12.8	19	0.8	1.4	254	455.4
全体の割合	18.27%	17.83%	73.07%	75.41%	3.31%	1.84%	5.04%	4.17%	0.31%	0.31%		

図. 抗癌剤化学療法施行件数



## 初期臨床研修医採用試験を終えて

地方の医師不足、診療科による医師不足、時間帯による医師不足が問題となっていますが、これらの原因として過酷な労働条件、インフォームド・コンセントを含む患者一人当たりの診療時間の増加、十分なバックアップ体制が整っていない女性医師の増加などがあげられています。そしてもうひとつ医師不足に影響していると考えられるのが、現在の初期臨床研修医制度です。当院は開院当初から人事面では広島大学から特別な配慮がなされ、これまでに多くの優秀な医師が大学医局から派遣されて参りました。しかしながら、平成 16 年度から新医師臨床研修制度が導入され、研修医の都会へ流出、大学医局への新入局医師の激減からこれまでの大学医局による人事派遣システムは崩壊しつつあります。県内でも山間部の病院では深刻な医師不足が発生しており、広島市内の病院でさえ大学医局からの医師の派遣が途絶え、診療規模の縮小や診療の休止という事態が生じています。

当院は広島市北部のほか安芸高田市、山県郡、佐伯郡、三次市、庄原市、島根県の総合病院および診療所の先生方や救急隊と密接な診療提携を行う地域の中核病院です。地域住民からの信頼は厚く期待も高いことから、地域における当院の役割は非常に重要ですが、この医師不足の問題は当院にも影響しつつあり、今後も慢性的な医師供給不足が続くと地域における中核病院としての役割を十分に担うことができなくなってしまいます。当院の中核となる優秀な人材を確保するためには、大学医局のみに頼らない独自の医師採用・養成システムを早急に構築する必要があります。

当院は新医師臨床研修制度が開始された当初から 5 名の研修医を採用し、指導・教育して参りました。本年度からは 6 名に増員し、現在 11 名の初期臨床研修医が勤務しております。この制度が開始された後、当院で 2 年間研修指導し初期臨床研修を終えた研修医のうち初代の 2 名と平成 17 年度採用の 2 名が後期研修医として当院にそのまま採用となりました。これは当院にとっての非常に大きな実績であり、優秀な人材確保となりました。

非常に嬉しいことに当院は広島大学のみならず、その他の大学の学生からも一目置かれており、平成 17 年度は 25 名、平成 18 年度は 12 名、平成 19 年度は 16 名の応募がありました。当院の初期研修プログラムに対する評価は高いレベルにあると自負しております。優秀な人材を数多く採用し、指導・教育することによって将来の優秀な人材確保および医療レベルの向上につなげることこそが広島市病院事業に対する市民の信頼獲得および地域の先生方への十分な貢献につながるものと考えます。

今年も 8 月 22 日に来年度（平成 20 年度）の初期臨床研修医採用試験を行いました。今回も 16 名の応募があり、6 つの国立大学の学生たちが採用試験に訪れました。なかには広島には縁もゆかりもないのに当院の研修プログラムに関心を持って見学に訪れ、採用を強く希望してくれる学生もありました。ほとんどの学生は当院以外の病院（都会の病院も含めて）を数多く見学しています。常に新たなことに取り組み、

しっかりと若い人材を教育しながら真剣に日常臨床を行うことなど、若い人たちに魅力のある指導医でなければ優秀な人材は集まりません。ますます医療現場は厳しくなっていますが、元気で優秀な若い医師たちが病院内を走り回っている安佐市民病院をいつまでも維持していかなければならないと感じます。それがわれわれ指導医の大きな使命であり、これからの日本の医療を支えていく最重要事項だと思っています。



臨床研修プログラム責任者（循環器科） 加藤雅也

平成19年6～8月 病床利用状況

		新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	利用率
内科	総合内科	0	0	-	-
	循環器科	243	245	8.2	-
	消化器科	383	381	11.3	-
	内分泌科	44	43	15.5	-
	呼吸器科	105	119	29.9	-
	血液内科	50	52	37.4	-
	神経内科	75	67	18.2	-
	検診科	0	0	-	-
	救急科	0	0	-	-
	内科計	900	907	15.0	112.3
外科		346	365	15.8	101.7
整形外科		276	278	21.6	151.4
脳神経外科		97	109	23.9	89.3
心臓血管外科		86	91	26.5	102.1
小児科		154	164	5.6	48.7
産婦人科		380	381	8.9	99.0
皮膚科		52	54	13.6	391.8
泌尿器科		148	147	9.7	129.2
耳鼻咽喉科		62	63	16.6	93.8
眼科		115	119	10.1	106.5
神経科		29	21	37.5	24.2
放射線科		32	34	32.1	29.5
麻酔科		42	33	9.7	19.7
リハビリ科		0	4	86.5	4.5
合計		2,719	2,770	15.0	84.8

医療連携システム利用状況(件数)

依頼内容	H19年		
	6月	7月	8月
C T	108	111	88
X 線	1	5	2
MRI	37	28	17
内視鏡(胃)	24	39	33
その他エコー等	19	14	14
外来予約	794	827	651
総計	983	1,025	810
1日平均予約数	46.8	48.8	35.2



\*\*\*編集室より\*\*\*

7月に『R-ネット瓦版1号』を発行し送付させていただきましたが、【安佐市民病院ホームページ 医療連携室】にアップいたしました。閲覧・印刷が出来ますのでご利用ください。

また、電子メール登録をされている先生方は、メールで送信をさせていただきます。

広島市立安佐市民病院  
医療連携室  
TEL 082-815-5211(内線 3250)  
FAX 082-815-5691

『R-ネット瓦版』編集WG  
代表 多幾山 渉

